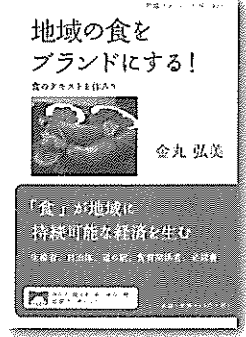


『雷波ブックレット』  
地域の食をブランドにする！  
—食のテキストを作る！—

金丸弘美 著  
岩波書店 本体620円(十税) 64頁



地域経済の活性化策の1つとして、全国各地の農水産品や「食」に付加価値をつけて都市部に売り込む「食のブランド化」が注目されている。政府・自治体のアドバイザーなどを務める食総合プロデューサー・食環境ジャーナリストの著者が、その基礎となるテキストの作り方や、バイヤー・消費者・マスコミに向けた効果的なプロモーションの具体的な方法を紹介する。

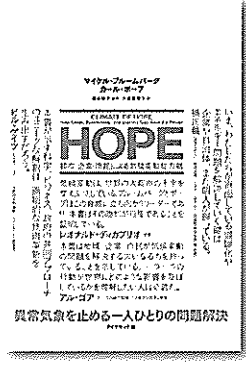
『環境マインドで未来を拓け』  
—いのちをまもる工学の60年—  
「環境工学への誘い」刊行委員会編  
京都大学学術出版会  
本体2000円(十税) 342頁



山極壽一氏(京都大学総長)推薦! 「[生を衛る] (いのちをまもる) 学問として誕生し、時には、危険な物質を垂れ流す者たちと身を張って闘いながら、安全・安心な社会基盤を作ってきた人々」の心意気。京都大学工学部衛生工学科は、身近な公害や地球規模の環境問題にいち早く取り組み、社会実装を進めてきた。第一線の先達たちが歴史から紡ぐ、知性と活力に溢れる若者に向けた学問への誘い。

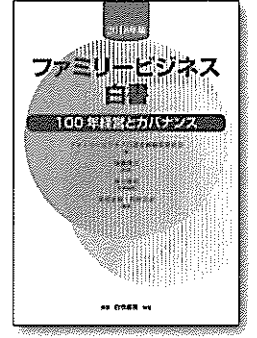
『HOPE』  
—都市・企業・市民による気候変動総力戦—

マイケル・ブルームバーグ／カール／ポール著 国谷裕子監訳 大里真理子訳  
ダイヤモンド社 本体1800円(十税) 400頁



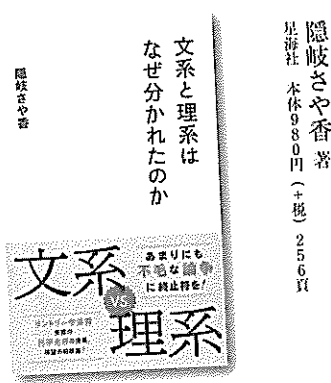
気候変動を止めるのは国際的規制・枠組といった「政治」ではなく、都市と企業と市民だ。世界的な企業・金融情報会社であるブルームバーグの創業者で元ニューヨーク市長と、世界的な環境保護団体の会長が、都市行政や企業戦略、市民運動の豊富な事例を挙げつつ、「未来の地球のために」だけではなく、身近な問題の解決を通じて気候変動問題にポジティブな成果を生む最適なアプローチを示す。

『ファミリービジネス白書2018年版』  
ファミリービジネス白書企画編集委員会編 後藤俊夫監修 落合康裕企画編集 荒尾正和・西村公志編著  
白楓書房 本体3500円(十税) 300頁



創業100年を超える長寿企業は全世界の約35%を占め、その多数がファミリービジネスである。地域経済への貢献などに誇りや自覚を持って経営されていると目され、長寿企業の多い日本には、中国やASEAN 諸国からその経営戦略や事業承継を学びに来るほどである。他方で、少子高齢化や承継の難しさから廃業に迫られる事例も増えており、今後、日本の産業基盤を損なう可能性まで指摘されている。2015年版に続き豊富なデータを取載した学術的研究。

『文系と理系はなぜ分かれたのか』  
隠岐さや香 著  
星海社 本体980円(十税) 256頁



「文系」と「理系」という学問の分類は、進路選択や就職など、私たちの人生を早期に規定するばかりか、産業や国の政策のあり方をも規定するものとなっている。しかし、私たちはこの分類を適切に理解し論じているのだろうか。科学史を専門とする著者が、西欧の近代諸学の成立や日本の近代化にまで遡りつつ、ジェンダー・学際化など直面する現実課題に切り込む。先入観や印象論を刷新する意欲作。

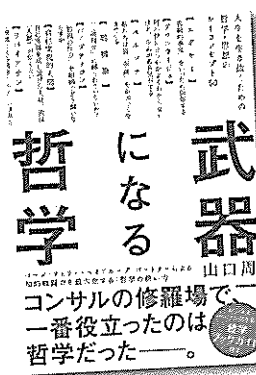
『期限切れのおにぎり』  
—大規模災害時の日本の危機管理の真実—  
鈴木哲夫 編  
近代消防社 本体1500円(十税) 256頁



震災後、社会インフラが急速に整備されたとしても、そこで再び暮らしていく被災者の心が立ち直らずして、真の復興とは言えない。政府には、まちの再建を急ぐスピードのみならず「待つ」覚悟が不可欠だ。地震国日本で、被災地の自治体首長や防災政策関係者の現場リーダーをはじめ、当地の災害報道のあり方、被災者のためのローカルメディアの役割、をつぶさに取材。危機管理の本質を提言。

『武器になる哲学』  
—人生を生き抜くための哲学・思想のキーコンセプト50—

山口周 著  
KADOKAWA  
本体1600円(十税) 368頁



「役に立たない学問の代表」とされがちな哲学は、ビジネスパーソンの強力な武器になる——筆者自身のコンサルティング経験から、「修羅場を切り開くうえで死活的に役立った」哲学・思想のキーコンセプト50を「人」「組織」「社会」「思考」の4つに分類し、厳選して紹介。古典古代から現代までの思想を博覧し、ビジネスの現場で生じるあらゆる困難に對し、活路と戦望を切り拓く。

『アイヌ人物誌新版』  
松浦武四郎 原著  
更料源蔵／吉田豊 訳  
晋土社 本体1800円(十税) 365頁



時の為政者によって当時は出版が禁止されていた本書。アイヌ民族が日本人からどのような立場に置かれていたのか、アイヌの誠実にして剛毅な生き方を丹念に記録し続けた稀有な日本人・松浦武四郎によるヒューマンドキュメント。長年、その記念館で松浦を研究し続ける学芸員・山本侑氏の解説を併載。2019年春、NHKでテレビドラマ化も決定した「旅の巨人」の遺した北の大地の踏査記録。